

令和6年度第1回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和6年11月18日（月）

開会 午後1時00分

閉会 午後2時00分

2 開催場所

相馬市役所 3階 正庁

3 出席した構成員

相馬市長	立谷秀清
教育長	福地憲司
職務代理者	宗形明子
教育委員	菅野明彦
教育委員	関根進
教育委員	森陽子

4 欠席した構成員

なし

5 事務局関係

（相馬市）

企画政策部長	佐藤芳男
企画政策課長	落合武志
企画政策係長	森洋人

（相馬市教育委員会）

教育部長	横山英彦
生涯学習部長	高橋利宗
総務課長	中塚記章
学校教育課長	目黒信浩
中央公民館長	杉茂

6 傍聴人

なし

7 協議事項

- （1）GIGAスクール構想第2期における取り組みについて
（学習者用コンピュータの整備・更新）
- （2）GIGAスクール構想第2期における取り組みについて
（学校ネットワーク環境の改善）
- （3）社会教育の充実について
- （4）その他

8 議事の経過

1 開 会（企画政策課長）

2 市長あいさつ

（要旨）

本日は、GIGA スクール構想についての協議を中心に進んで行くものと思うのですが、この件に関して、全国市長会長として国に対して予算の確保をしきりに訴えてきました。とは言え、頭の中には、タブレット一枚で本当に教育になるのかという思いがありました。確かにタブレットを使用した方が有利な教科があって、地理とか理科などについてはそうかもしれません。ですが、国語の読解力については、実際に本を手に取り、字を書く、ということが必要なんだろうと思います。その延長に RST も有効だと私は思っているところです。

3 教育長あいさつ

（要旨）

市教育委員会の施策に対する、市長のご理解や日頃のサポートに対してありがとうございます。

GIGA スクール構想について、第 1 期で児童生徒一人ひとりへの端末の配備が完了し、授業においてこれらの活用が当たり前となっている状況です。第 2 期において、ネットワークの整備や端末の更新の費用がかかってくることから、これらの議題についてご提案申し上げたいと思います。先ほど市長のお話にもあったように、コンピュータは決して魔法の道具ではなく、あくまでも学習のためのツールの 1 つだと思っています。教科書を 1 ページ 1 ページめくり大事な所を見つけたり、ノートに自分の字で考えをまとめて丁寧な字で書く、そういったことも重要であると思っております。そういった部分の授業の充実もあわせて進めていきたいと思っています。

これは RST を活用した読解力向上、この授業改善に繋がるものだと思います。読解力を向上することで、様々な本に出会って感動できる、新聞を読んで関心を持てる、これが一人ひとりの子どもたちの人生を豊かにするものですので、教育委員会としては、ICT と RST を両輪として進めていきたいと思っています。

それから、社会教育の充実について、私はここのところの市民の生涯学習に対する意欲をととても感じています。公民館だよりの内容も、何年か前よりずっと良くなっています。公民館活動・社会教育をますます充実させて行くために、こういったことを考えているかということを経験にさせて頂きたいと思っています。

4 協 議

（1）G I G A スクール構想第 2 期における取り組みについて

（学習者用コンピュータの整備・更新）

●協議結果

学習者用コンピュータの整備・更新は計画どおり進める。ただし、本を読み、字を書くといった手を使う学習にこそ勉強の本質があることから、ICT はあくまで学習効果向上のためのツールとして位置づけ、上手に活用する。

●協議内容

横山英彦教育部長 （別紙資料により説明）

菅野明彦委員 学習用コンピュータは、文房具のように道具として使えるように、低学年のうちからは難しいでしょうが、6年生になるころまでには使えるようになると良いのかなと思います。研修で見てきたところでは、6年生ではほぼ全員が話すスピードに合わせて入力できるレベルで使えていました。ただ、それが出来たからと言って勉強ができるわけではないので、そのあたりをよく理解したうえで、あくまでツールとして使えるようになれば良いのかと思います。

関根進委員 基本的には菅野委員と同じ考えです。かつてそろばんが電卓になったように、今の時代、ICTを使いこなすことが当たり前となっています。しかしながら、自分でもネットで調べものをして、あまり覚えていないというのが実感としてあります。

森陽子委員 ICTの活用によって調べる速度が速くなるというのは良い点かと思いますが、調べすぎとなることに関しては心配しています。読書感想文や工作なども何でもネットで調べて自分のアイディアではなく、ネットで調べた結果をつぎはぎで作る、ということがあり心配です。

宗形明子委員 ICTの活用能力をある程度育む必要はあるかと思いますが、やはりそれ一辺倒ではなく、上手に使い分けていくというのは皆さんと同じ考えです。

福地憲司教育長 ICT教育を極端に進めているところでは、学力向上に繋がっていないという現実があります。便利さは活用すべきだと思いますが、勉強そのものの本質ではないと思います。

立谷秀清市長 結論としては、ICTはツールとしてうまく位置づけること、学習の本質としては、手を使って筆記したり、ページをめくったりすること。ICTのメリット、例えば調べものなどにはうまく利用し、手を使う学習という本質から逸脱しないこと。そのようなことで、整備・更新については計画どおり進めるということによろしいでしょうか。

(異議なしの声)

立谷秀清市長 それでは協議事項(1)についての協議を終わります。

(2) G I G Aスクール構想第2期における取り組みについて (学校ネットワーク環境の改善)

●協議結果

計画に従い学校ネットワーク環境の改善を進める。事業推進にあたっては、費用面での効率性に十分留意する。

●協議内容

横山英彦教育部長 (別紙資料により説明)

立谷秀清市長 これは、いかに効率よくやるかということが問題であって、この方向で進めるということで問題ありませんね。

(異議なしの声)

立谷秀清市長 それでは協議事項（２）についての協議を終わります。

（３）社会教育の充実について

●協議結果

社会教育指導員の欠員（定員３名に対して１名の欠員）の解消を図るため、教員の退職者だけでなく、市役所退職者等も含め適任者を探し、人員を確保する。

●協議内容

高橋利宗生涯学習部長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 社会教育指導員に１名欠員があるということですが、社会教育指導員はどういう人になるのですか。必要な資格などは。

高橋利宗生涯学習部長 特別な資格は必要ありません。社会教育主事の資格を持っている人もいますが、基本的には教員の退職者ですとか。学校との連携ができる方が望ましいです。もともとは仮設住宅ができた際に、カラオケ教室などの講座を行ったことがありましたが、そのような講座も行います。

立谷秀清市長 話の上手な人が適任だと思います。話の上手い先生でないと伝わらない。「社会教育指導員」というと大層な名前に聞こえるが、活動内容としては「生涯学習推進員」というところですね。その人に要求されるのは、「教養」と「トーク力」ですね。

菅野明彦委員 社会教育指導員の本人が教室を持つのでしょうか。

高橋利宗生涯学習部長 本人が企画して教室を持つ場合もありますし、講師をコーディネートする場合があります。

立谷秀清市長 ここで扱うテーマは、閉じこもり老人の問題や、地域社会のコミュニケーションの問題でもあり、教育部局だけでは収まらない問題です。これは、市全体で考える問題かと思います。

宗形明子委員 これまでやってきたような講座であれば、企画をするにあたって教員退職者の方が適任かと思いますが、市長が言われるように、市全体で考える問題ということも分かります。そういった観点から見れば、教員退職者以外からの人選も良いかと思います。

立谷秀清市長 教員退職者だけでは人材確保に限界があると思います。これからは 75 歳まで働く時代なのだから、教員退職者にこだわらず市役所退職者等も含めて適任者を探し、人員を確保して行く必要があると思います。このことに対して何か皆さんから他にご意見はありますか。

（意見なし）

立谷秀清市長 それでは協議事項（３）についての協議を終わります。

（４）その他

立谷秀清市長 その他、皆様から何かございますか。

（その他協議事項なし）

立谷秀清市長 その他なければ、これで今日の会議を終わります。

5 閉 会